



## 赤穂市議選2025 立候補予定者アンケート

=五十音順=

※いずれの質問もタイトル15文字以内、本文100文字以内で回答を求める、立候補予定者から提出された回答をそのまま掲載しています。

氏名(年齢)、党派、現新、当選回数  
主な経歴(過去の経歴)、最終学歴  
現住所【出身地】

※党派の表記は、「公」は公明党、「共」は共産党、「N」はNHK党、「躍」は躍動の会、「無」は無所属。

牟礼正穂市長の市政運営や施策を100点満点で評価し、そのように採点した理由をお答えください。

赤穂市議が次の4年間で取り組むべき市政課題で最も重要だと考えるものを一つ挙げ、解決、改善するための方策をお答えください。

赤穂市民病院の経営形態について、どうすべきとお考えですか。「現状維持」「変更すべき」「その他」から選び、理由をお答えください。

任期満了であれば2029年に実施される見込みの赤穂市議会議員選挙において、定数は何人が適していると考えますか。人数を示した上で、どのように考える理由をお答えください。

荒木 友貴 (39) 無現①

市議(市職員、観光業会社員)京都大院文学研究科歴史文化学専攻考古学専修中退、大町[京都府宇治市]



30点

子育て、福祉分野で進展はあるが、公共施設等の維持管理や病院事業など大きな課題に将来ビジョンを示せていない。施策が総花的で、人口減少時代に負担を残す市政運営であり、チャレンジするまちになっていないから。

市民満足度を高められるまち

財政的に施設等の縮充や事業見直しを図りつつも、官民学連携で新しいことに挑戦し、メリハリのある市政運営によって市民満足度を高める必要がある。そのために市民提案制度を導入し、協働で取り組める土壌をつくる。

変更すべき

病院側の経営改善努力だけでは、市が将来に渡り負担できる範囲内に收支改善できないことが明らかとなった。市の地域医療と財政バランスを考えるなら、まず病院規模の縮小を図り、経営形態の移行を考える必要がある。

16人

議員が地区を超えた市全体の課題に市民・団体と連携して取り組み、他市町、県、国との関係強化へと力点を変化させれば16名で十分に役割が果たせると考えるから。そのためには議会活動の見える化はさらに必要だ。

家入 時治 (70) 無現⑤

市議、市監査委員(連合兵庫赤穂地区連絡会会長、議長)伊丹高定時制卒、加里屋中洲[熊本県大津町]



30点

1期目からの公約自体が赤穂市の財政状況を鑑みた上で本人の考えではなく、赤穂市の将来ビジョンも持っていないと感じる。市民病院のあり方検討の判断は遅れ、議会での答弁も曖昧であり、職員力での30点。

企業誘致・雇用の拡大、元気な街

赤穂市民の生活満足度・幸福度が低下しているデータがある。工業用地・準工業用地が少なく、新たに用地活用ができる企業誘致も可能な社会情勢にある。既存企業の拡大投資、企業誘致、花火大会の復活で元気に。

変更すべき

人口減少が進展。市内には民間病院もある。市民病院は国の方針で紹介状のない初診患者は特別の料金7700円要。患者数は激減し赤字は年間10億円超。これらの解消には、200床未満で民間の経営、運営に変更を。

16人

人口減少の進展が最大の理由。議会がチェック機能を果たすためには、委員会構成が重要であり、2委員会、各8人構成が妥当である。

井田 佐登司 (62) 無現①

ウイング神姫社員(松下電器社員、さつき町自治会長)相生産高卒、尾崎[赤穂市]



点数は未定

施政方針の内容だけでは、判断しにくい所が有り未定であり、これまでの市政運営についても、今のところ評価困難である。市長が、赤穂市民、行政職員、市議会議員ともっと対話をすべきと考える。

市議会議員の質の向上

市議会議員本人の向上心が一番必要と考えます。その上で赤穂市民の生活を考え向上させるべきと考えます。

変更すべき

先の代表質問でも述べたように、市民病院は、市民を守るために病院であるので、通院患者、入院患者数の確保とゆう議論より、赤穂市民が病気にならない予防を前提とした健診に力を注ぐべきと考える。

15人程度

質問②で回答したように、赤穂市を良くしたい議員の集まりであれば、15人程度で赤穂市は良くなっていくと感じます。又、赤穂の未来を真剣に考え、行動できる議員の集団を確立すべきと考えます。

木下 秀臣 (60) 無新

赤穂海陸非常勤技師(同社課長、清水町自治会副会長)兵庫工高卒、尾崎[福岡市]



75点

過去20年近くの負の遺産がある中で、特に大きな失政はないと思うが、市民のタバコ等、いくつかの点に、若干の相違がある。何にしても人口減少による市税の減収は市と議会でもっと建設的に議論すべきと考える。

市の経済基盤の健全化

経済基盤の健全化策の目玉として「道の駅」建設は観光客誘致の他、第一次産業(農漁業)、第二次産業(加工)、第三次産業(販売)が活性化し、地域雇用にも大きく貢献する。これに注力したい。

その他

中規模病院としての市民病院は欠かすことのできない病院の一方で、赤字経営が続き市民に負担が掛かっているのも事実。私は現在の経営を維持しつつ、医師の確保や、診療時間の見直し等で患者数を増やすべき。

15人

「自治会長か議員かわからないような方がたくさんいる」と言う声をよく耳にした。私の実家がある福岡のとある市は10万人の住人に対し20名の議員で運営している状況を照らし合わせ15名とした。

齊藤 雅史 (48) N新

会社員(赤穂市子ども・子育て会議公募委員)グロービス経営大学院大学経営、中広[宮崎市]



30点

一見卒ない市政かと存じます。ただ、赤穂の中学校での事故による後遺症で、息子は普通に学校に通えなくなり、安全管理について強い疑念があります。また昨年の県知事選の際の市長の行動に失望しました。

学校や病院の安全管理体制強化

学校や病院等の安全管理体制を見直しリスクを評価し対策を講じ続けることが望まれます。これにより、現場の判断ミスや負担が総合的に軽減され、事故の低減、事故の深刻化の予防が進むと考えております。

変更すべき

MBA取得を通じ、経営環境は変化し続けるものと学びました。内外の変化や問題に向き合う事が大切です。現状とあるべき姿とのギャップを分析して、継続的に改善する仕組みを設ければ、運営の健全化が図れます。

15人

例えば、議員一人当たり何人の声を伺えるかを考えたとき、5000人(定数9人に相当)では漏れが出るよう思えます。私としてはせめて3000人の市民の声を伺い市政に反映せねばという想いで15人としました。

柳 悠太 (34) 無現②

市議、社会福祉法人事務局長(赤穂精華園職員)兵庫県立大院環境人間学研究科修了、上坂屋南[赤穂市]



65点

誰が市政運営の舵取りをしても難しい時代であると理解している。しかしながら、市民病院の経営問題に取り組む姿勢や土地利用の考え方など、真に市の将来を考えた市政運営なのか、考えの相違もありこの点数。

赤穂市民病院の経営問題

財政的にも医療的にも赤穂市の明るい未来のためには、市民病院の復活が不可欠である。最低限の地域医療の維持を前提に、病院の経営形態や規模、診療科等についてあらゆる方策を探り、早急に実行に移す必要がある。

その他

地域の医療を守りつつ経営を再建できるのであれば、その形態にこだわるものではない。

—

その時の議員がその時の状況により判断するべき。

菅原 真樹 (61) 無新

元全日本フリーダイビングチーム監督、水中写真家、大阪芸術大学音楽学科卒、南野中[西宮市]



点数付け出来る立場で無いため

私は人に点数をつける立場ではないと思いますので、Otherのコラムを選択させて頂きました。

市民最重視の財政用途にする事

①重点投資分野の設定。市民重視分野への優先投資②財政用途徹底「見える化」説明責任。予算用途徹底明確化、定期報告で信頼回復③持続的運営。単年バラマキを長期的視点で当面運営重視へ税収増加策と支出最適化。

変更すべき

①地域包括ケアシステム。看護師や相談チームが受診困難地域へ出向。全国の医師選択WEB診療+薬宅配送②「医療+介護福祉+教育」複合と産科・小児科充実③薬・材料共同購入や高額夜勤医師勤務見直しでコスト削減

多角的に定数算出の検討が必要定数のみを考えるのではなく、議員の仕事の質、内容、如何に市民のために動いているか問われる。市民のために尽くす市議を更に集める努力も行い、市政運営に最も適した定数を、あらゆる角度から算出検討が必要。

田渕 和彦 (73) 無現②

市議、建設水道委員会委員長(赤穂市民病院統括医療技術部長)神戸常盤短大卒、西有年[赤穂市]



40点

熱意が伝わらない。市民病院への対応と責任のない発言。総務省の言う公共施設等の削減目標をたてた取組みに対し、赤穂市は目標が26・2%、達成状況が0・7%。将来を見据えた市政運営がされていると思えない。

公共施設等適正管理と財源確保

美化センターや市民病院、美術工芸館や民俗資料館など文化施設の管理運営のあり方を考える。例えば、美化センターは広域連携を、美術工芸館は立地条件と所蔵品を活かし、集客性の高い施設運用を民活で行う。

現状維持

一般会計の経営改善に繋がらない繰り出金に対する市長の説明責任は必要。地方都市の医療水準を維持するには官民連携と公的病院は必要。医師不足は官民間わず地方都市で起こっている。県・国の支援は切り離せない。

16人

人口を4万1千人と推計し、他市の議員定数から16人とした。人数が減ると議員が人口の多い市街地に集まり議会活動とは別に、市全域の抱える課題を議員がチェックできるか日々の活動の中で懸念していた。

土遠 孝昌 (66) 無現③

議長(県市議会議長会副会長、副議長、総務文教委員会委員長)相生産高卒、正保橋町[赤穂市]



60点

令和7年度については、子育て支援として市長の当初公約の給食費の無償化出来る事となり又、医療費の高校生までの無償化が実現出来る様になったが、今後継続的に実施していくための財源確保が課題である。

人の命の大切さと安全な市民生活

南海トラフ地震については、今後30年以内に起こる確率が、80%以上になったと予想されているため、上下水道の耐震化の強化及び坂越地区の老朽化した保育所・幼稚園の建て替えが必要である。

変更すべき

市民病院の経営支援に対して、令和6年は一般会計から8億円の繰り出しをしているが、医師と看護師の確保が非常に厳しく、今後病院の収益が上がるることは難しいことから、更に一般会計からの繰り出しが予想される。

16人

赤穂市の人口が4万人を割るようであれば、議員の定数の見直しも必要ではあるが、市政に対するチェック機能が低下する恐れがある。

中谷 行夫 (67) 無現①

赤穂八幡宮常務総代、赤穂防災士の会副会長(消防団第6分団副分団長)相生産高卒、松原町[赤穂市]



65点

多額の財源が必要なため先送りされていた新学校給食センターなど施設等の整備事業の推進により、市長の公約が実現できないことは理解できます。一方、風通しの良い職場、市民への説明責任の対応が必要です。

子育て支援による少子化対策

妊娠・出産・子育て期のライフステージに応じた切れ目のない包括的な相談・支援や、様々な課題を抱えた方々に寄り添える支援を行うため、こども政策全般の業務を一元化した組織体制により、ワンストップ化を図る。

変更すべき

赤字補填により市が破綻する恐れがあり、深刻な医師不足により地方の公立病院は医師の確保が困難なため、経営改善は不可能です。負債の返済、精算に約29億円が必要なため、譲渡条件の協議による民間譲渡です。

16人

市の財政、人口減少状況を鑑み、今回の議員定数削減の私の考えは2減の16名でした。行政のチェック機能の低下や市民の声を市政に反映していくため、議員一人ひとりが日々研鑽し、議員活動に専念すべきです。

## 赤穂市議選2025 立候補予定者アンケート

=五十音順=

※いずれの質問もタイトル15文字以内、本文100文字以内で回答を求め、立候補予定者から提出された回答をそのまま掲載しています。

氏名(年齢)、党派、現新、当選回数  
主な経歴(過去の経歴)、最終学歴  
現住所【出身地】

※党派の表記は、「公」は公明党、「共」は共産党、「N」はN H K党、「躍」は躍動の会、「無」は無所属。

牟礼正穂市長の市政運営や施策を100点満点で評価し、そのように採点した理由をお答えください。

赤穂市議が次の4年間で取り組むべき市政課題で最も重要なものを一つ挙げ、解決、改善するための方策をお答えください。

赤穂市民病院の経営形態について、どうすべきとお考えですか。「現状維持」「変更すべき」「その他」から選び、理由をお答えください。

任期満了であれば2029年に実施される見込みの赤穂市議会議員選挙において、定数は何人が適していると考えますか。人数を示した上で、どのように考える理由をお答えください。

なんじょう ちづこ 南條千鶴子(66) 公現①

市議(八木商事社員、赤穂仁泉病院看護師)相生市看護専門学校卒、片浜町【鹿児島県長島町】



60点

課題が山積する赤穂市政において、唯一立候補され財政難の中、市民に直結する様々な事業にも丁寧に取り組んで来られた。しかし、市民病院の方向性等、重要課題に対して説明の発信力が弱く市民にわかりづらい。

少子高齢化、人口減少

移住定住支援として住宅支援や就労サポートの充実。子育て支援の充実、保育所幼稚園の整備強化。若者会議を開催し課題に対する意見交換の場を持ち施策に繋ぐ。健康長寿の取り組み強化。高齢者世帯への支援の拡充。

その他

人口減少、医者不足の改善は厳しい。現状維持の経営形態では経営検討委員会の目標値、2年連続達成出来ない事は明らか。赤穂市民病院 公立病院経営強化プランに基づき経営形態の移行を速やかに検討すべき。

16人

議会活性化に関する協議の中で議員定数に対してあらゆる角度から検討してきた。2025年度から1減になったが、様々な議案にしっかりと審議を行うという観点と2029年度の人口減少を鑑み16人が適すと考える。

にしかわ ひろし 西川浩司(61) 無現②

副議長、赤穂軟式野球協会副会長(建設水道委員会委員長)作陽高中退、上飯屋南【赤穂市】



60点

子育て家庭への支援を強化し、「子どもまんなか社会」の実現を目指し、相談支援体制の強化、経済負担の軽減、子育て家庭への訪問支援、就労両立支援、居場所づくりと切れ目のない支援で支える施策に取り組んだこと。

市の技術職員の人手不足解消

赤穂市の危機管理能力強化が必要と感じます。行政の危機管理監に、国の制度を活用して、特別交付税措置を受け常勤職員として迎え、専門的な知識と経験を持つ地域防災マネジャー制度を検討すべきと感じる。

変更すべき

市民病院の経営状況は、依然として厳しい状況であり、経営形態の見直しを検討する必要がある。市長部局に経営形態の方向性を検討する体制を構築する方針であるが、結論を出す時期と考える。

15人

出来ることなら、定数を減らす議論より、市政のチェック機能として、常任委員会の人数が、減少することはマイナスであると感じます。常任委員会を、二つにして7人から8人で協議する事と考えると15人と思います。

ひょう としお 飯野敏雄(67) 無現③

市議(JA兵庫西職員、議長、監査委員、農業委員)神奈川大経済卒、尾崎【赤穂市】



75点

給食費が完全無償化に近づいた点、医療費が18歳まで無償化した点など評価する点もあるが、市民病院の信頼失墜、赤穂インター周辺の土地活用など道半ばの公約もあり、点数は良として、今後さらに期待したい。

人口減少への対応

今年、二十歳の集いを迎えた人は464人。一方で5年度出生者は206人。これから人口減少が進む。転出者を抑え転入者を増やすしか、都市間競争に生き残る術はない。医療関係者の転入に努力することはできないか。

変更すべき

現状維持と回答したいところではあるが、医師や看護師の現状では市民の期待に応えることはできないのではないか。大病院に重篤な患者は任せ、かかりつけ医とも連携し、多死社会に対応できる病院に変わるべきである。

15人

次期定数は改選後の議員が協議するものであるが、これから急速に人口は減少する。今年度は5人で構成する常任委員会ができるので、それを踏まえて、常任委員会を2委員会にするという議論も出てくるのではないか。

深町 なおや 直也(38) 共現①

党赤穂市議員長、党西播地区委員(保育所職員)白鷗大院修了、本水尾町【赤穂市】



50点

産廃建設への反対姿勢、高校生の医療費全面無償化の実現など評価すべき点も多くあるが、下水道料金や国保税の値上げ、国や県の方針に従ってのマイナ保険証や万博見学推進など賛同できない部分が多く、この点数。

地域公共交通の充実

昨年200円に統一・実質値上げとなつた、ゆらのすけ、ていじゅうろう、路線バスの3つのバスの運賃の100円への引き下げ、増車・増便、ルート拡大などを行い、乗車人員を増やす方策を行っていくべきである。

現状維持

市民病院の経営形態を地方独立行政法人や指定管理者などに変更すれば、利益優先の経営となることが想定される。現在の公立病院としての、市民の命と健康を最優先としての経営改善を目指していくべきである。

17人

今回の市議選からの18名からの定数1削減にも反対した。大切な市民の声を赤穂市・議会に届けるために、これ以上の議員定数削減は行うべきではない。議会の予算削減は政務活動費の削減・廃止で行うべきである。

まえかわ ひろみ 前川弘文(63) 公現⑤

党兵庫県本部幹事、党赤穂支部長(三菱電機社員)相生産高卒、元沖町【赤穂市】



70点

妊娠婦や子育て世代が安心して出産・子育てができる環境づくり、高校生世代までの医療費の無償化(所得制限なし)、コミュニティバスと路線バスとの一体的な運用による交通弱者の利便性向上等の政策を評価する。

地域共生社会の実現への取組み

相談者の世代や相談内容に関わらず、包括的に相談を受け止める体制の構築と相談を起点にした伴走型の支援や地域づくりとその対応への人材の確保と育成。住民同士が助け合う互助を強める意識変革の啓発活動の実施。

その他

人口減少が進む中、当面は赤穂中央病院との機能連携と地域の医療機関との連携強化により市民の健康と命を守る。2病院間で経営改善のために再編や統合を見据えて、指定管理等の経営形態の見直しに着手してはどうか。

16人

合理的基準はないが、人口減や他市との相対的比較により判断する。議会運営は、16人が適正。1常任委員会8人で2委員会とする。議会活動に専念できる16人の議員により、住民意思の反映や政策提言に取組む。

まつざき あきひこ 松崎昭彦(55) 無新

赤穂市体育協会理事、市スポーツ少年団副本部長(特別養護老人ホーム職員)相生産高卒、折方【赤穂市】



50点

赤穂市民病院への一般会計から病院事業会計に繰り出し額が8億円となったことや医療過誤、循環バス運賃値上げ減便、市民のタバコやかきまつり中止などの影響もあり成果よりも不安不満の声が上回ったように感じたため。

誰もが安心して暮らせる地域社会

地域共生社会・認知症バリアフリーの実現に向けて、認知症の方やご家族を支援する「チームオレンジ」の活動をさらに展開するために、各地区に立ち上げしやすいように補助を増やしたりイベントをもっと開催する。

変更すべき

赤穂市民病院を残すためにも、地方独立行政法人や指定管理者制度、民間譲渡で検討すべきです。借金返済ばかりでは良い市民サービスができません。

15人

人口段階別にみた5万人未満の市議会議員の実数は1市あたり平均16.9人だが、赤穂市人口は45000人を下回ってきているので15人定数で、定数削減した分を市民サービスへ回した方がよいと考えます。

やすだ まさし 安田哲(54) 無現①

市議(熊本県職員、赤穂観光協会事務局長)慶應大総合政策卒、高野【神奈川県相模原市】



50点

子育て支援や教育環境の整備に力を入れていること特に高校生までの医療費無償化については高く評価できます。一方で未だ赤穂市民病院の経営再建の道筋が描かれていない点は市政にとつての大きな課題となっています。

子育て支援・教育環境の充実

財源に限りがあるなかで、子育て支援や教育環境の整備だけにお金を回すことはできません。その為にも、国が進める「こども未来戦略」に基づく様々な事業を積極的に活用することで財源を確保していくことが重要です。

その他

経営形態を変更すれば経営が改善される訳ではありません。人口減少や医師不足といった医療を取り巻く将来の社会環境を踏まえた上で、まずは赤穂市民病院の地域医療における役割を明確にすべきと考えます。

13人

今回の市議会議員選挙の定数については3人減の15人を提案していました。その理由は、15人で議会運営は十分可能という考え方からです。4年後の赤穂市の財政状況を考えると更なる定数削減が必要と考えます。

やなぎた ともき 柳田智貴(45) 無新

自営業、赤穂東中卒、中広【赤穂市】



70点

施策はいいと思いますが、まだ実行の途中段階なので点数をつけさせて頂くとすれば、70点とさせて頂きました。

観光活性化

市民の声を聞き、皆様と共に赤穂市のイベント事や魅力溢れる町作りに力を入れ、町が活性化をし、移住者増加、少子化問題、様々な相乗効果を生みだし5年後10年後その先の未来に向かって赤穂市の魅力を発信します。

その他

現状維持のまま再生出来るのが望ましいですが、市民の事を想うと早急に手を打つ必要があると想います。市民の皆様が不安なく安心して医療を受ける事が1番の願いです。

17人

今年度から定数が減りましたので様子をみながら考えて行く必要が有ると思います。

やまたに まさよし 山谷真慶(56) 跳新

元赤穂市職員(塩屋幼P T A会長、塩屋小P T A副会長)國土館大政経卒、磯浜町【赤穂市】



30点

一定の評価ができる施策もあるが、不十分である。市政の透明性を欠き、市民の信頼を損なう問題が多発。特に、市民病院の医療事故対応や経営見直し、知事選での特定候補支援など、公正性を欠く判断が目立つ。

赤穂市民病院の改革

経営形態の見直しを進め、医療事故の再発防止と経営の透明化を図る。外部監査の強化、市民説明会の実施、医療体制の充実により、市民が安心できる病院運営を確立する。

その他

まずは赤穂市民病院の財政状態等を全て開示し、市民が現状を正しく把握できるようにすべき。その上で最適な経営形態を検討し、市民にとって最良の医療提供ができる体制を構築すべき。

14人

人口減少と財政負担を考慮し、議員定数を削減すべき。少数精銳で効率的な議会運営を行い、市民の意見を反映しつつ、議会活動にかかる経費を軽減する。議会改革を進め、質の高い議論と政策立案を推進する。

やまの たかし 山野崇(50) 無現③

行政書士、会社役員、鮮魚販売業、市議(監査委員)赤穂高卒、寿町【赤穂市】



30点

市民病院の経営問題、使用料手数料、施設の統廃合など市民に嫌われてもやらなければならないことは先送りし、2~3年後には予算が組めないほど財政を悪化させている。これではトップとしての責任を感じられない。

財政健全化

予算、福祉、教育等市民が求めるものであっても、財政が悪化していては何も問題解決には取り組めません。まずは市民病院の経営問題に取り組み、その影響額を見極めてから更なる行政改革に取り組むべき。

変更すべき

私には赤穂中央病院様がどう考えておられるのか分かりませんが、共に赤穂市の医療を担っていただいてきた関係であるからこそ民間移譲をまず検討すべき。それから他の経営形態の検討をしていくことが順序と考えます。

15人

議員が減っても喜ぶのは行政だけと考えている私は、議員数はある程度必要であると思っています。しかし立候補者も少なく、議会改革が進んでいる訳でもない。こんな議会では減らしていくのが妥当であると考えます。

